

宮崎ロータリークラブ週報

no.43 | 発行 | 2023年6月6日 | 担当 | 赤石 裕一郎



2022-2023 Theme

■ 前回の例会記録

第3382回 2023年5月30日(火)

【ローターアクト】

宮崎ローターアクト 幹事
谷次 一研 様 (野村證券宮崎支店)

出席状況報告

会員数(名誉会員2名を除く)	97名
例会出席会員数	72名
同上出席率	74.22%

■ 今回の例会予定

第3383回 2023年6月6日(火)

【ゲスト卓話】

フリーアナウンサー
中西 可奈 様
(元KKB鹿児島放送アナウンサー)

* 誕生日祝・結婚記念日祝(親睦委員会)

■ 次回の例会予定

第3384回 2023年6月13日(火)

【五大奉仕委員長退任挨拶】

- クラブ奉仕 高木 純一 委員長
- 職業奉仕 吉本 悟朗 委員長
- 社会奉仕 朽木 充嗣 委員長
- 青少年奉仕 堤 太郎 委員長
- 国際奉仕 鳥山 純代 委員長

■ 幹事報告

- ・週報、ポスティング紹介
- ・東京OB会報告
- ・新旧クラブ協議会

■ 会長の時間



カタリンカリコ博士

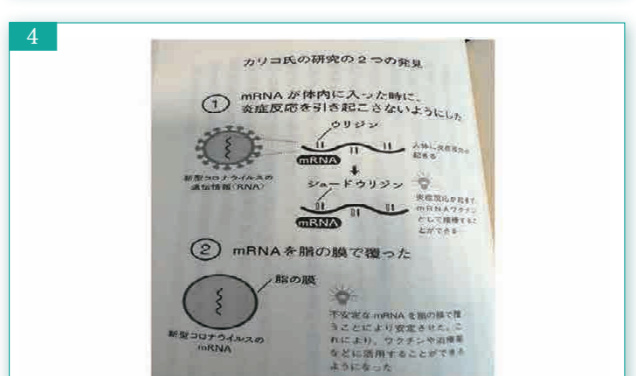
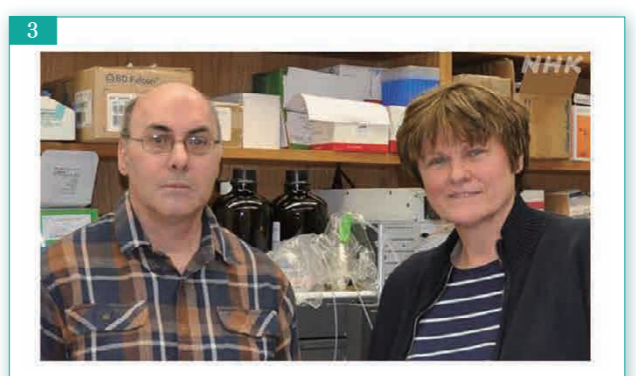
川崎 建作 会長

皆さんこんにちは。きょうはカタリンカリコ博士についてお話をしたいと思います。日本ではカリコ博士の名前を聞いても、ピンとこない人が多いかもしれません。現在はドイツのバイオ企業のビオンテック社の上級副社長をされています。博士の功績を分かりやすく言うと、多くの日本人が接種したファイザー社やモデルナ社の新型コロナウイルスワクチンの原理を見つけた人です。両社のワクチンはともに「mRNAメッセンジャーアールエヌエー」という遺伝物質を利用しております。カリコ博士は早くからこのmRNAに注目し研究を重ねてきました。つまり日本人の大半が博士の恩恵にあずかっているということです。ファイザー社のワクチンはビオンテック社との共同開発ですが、実際はビオンテック社が主導していたといわれています。カリコ博士の関与が大きく、2021年のノーベル医学賞はカリコ博士が受賞するだろうと多くの医学関係者は予想していましたが残念ながら受賞できませんでした。大方の推測では、まだ、コロナ禍が収まっていないので2021・2022年の受賞はありませんでしたが、近い将来の受賞は確実視されています。私の予想としては、コロナ禍がほぼ収まりつつある今年の受賞が濃厚ではないかと思えます。いまや「世界の恩人」とも呼ぶべきカリコ博士ですが、その40年にわたる研究人生は苦難の連続でした。博士は1955年、ハンガリーで生まれました。私と同じ68歳です。小さいころから非常に優秀で大学は最難関校の国立セゲト大学に進み、



卒業後はハンガリー科学アカデミーの奨学金を得て地元の研究機関の研究員になりました。その間RNAの研究で博士号をとりました。ところが突如、政府からの研究費が打ち切られることになり、アメリカ行きを決意します。1985年カリコ博士は夫と幼い2歳の娘とともに渡米します。当時はまだ冷戦時代で社会主義体制のハンガリーは西側への通貨の持ち出しをきびしく制限していました。アメリカドルはわずか100ドルまで、いくら何でも少なすぎます。闇で車を売ったりして1000ドルを作りました。それをビニール袋に入れ、娘のテディベアの縫いぐるみの中に隠し持ち出しました。渡米後、ペンシルバニア州のテンプル大学で研究員となり、その後ペンシルベニア大学に移って助教授となりmRNAの研究に没頭します。しかし、研究結果はなかなか評価されず、助成金の申請を企業に断られたり大学の役職を降格になったり、研究生活は苦難の連続でした。そんな中、大学内でコピー機の順番待ちをしていた時に言葉を交わしたことがきっかけでHIVワクチンの開発研究をしていたドリュー・ワイスマン教授と共同研究をすることになります。そして2005年今回のワクチン開発に道を開く画期的な研究成果を発表したのです。しかしこれもほとんど注目されませんでした。2010年にはmRNAの関連特許を大学が企業に売却してしまったため、彼女の研究は事実上頓挫してしまいました。失意の彼女を救ったのがドイツのバイオ企業のビオンテック社でした。2011年ビオンテック社は彼女をドイツに招き、研究を続ける契約を結びました。ビオンテック社の創業者のウール・シャヒン博士と妻のエズレム・ティレジ博士はともにトルコ系ドイツ人。二人とも医師で最先端医療の研究者だったのでカリコ博士の研究の価値を見抜けたのです。mRNAは体内で炎症反応を引き起こしてしまうので、長年、薬などの材料として使うのは難しいと考えられていました。しかし、カリコ博士とワイスマン教授の共同論文はmRNAを構成する物質の1つ「ウリジン」を「シュドウリジン」に置き換えると炎症反応が抑えられることを指摘、ここにビオンテック創業者のシャヒン博士は着目したのです。2020年3月ビオンテック以前から共同で研究していたアメリカの大手製薬会社ファイザーとmRNAを用いた新型コロナウイルスワクチンの開発を開始すると発表しました。臨床試験で95%という高い有効性を確認したとして世界を驚かせた後、今までは、ワクチンの開発から承認に至るプロセスに数年から10年かかるころを、共同開発の発表からわずか9か月の2020年12月には一般人へのワクチン接種が開始されました。こ

れにより、カリコ博士らの功績が世界に認められることになりました。パンデミックが収まりつつある今年こそカリコ博士がノーベル医学賞を獲得することを信じております。これで会長の時間を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。





■ ローターアクト



宮崎ローターアクト幹事

谷次 一研 会員
(野村證券宮崎支店)

こんにちは。本日は宜しくお願ひいたします。ご紹介に預かりました野村證券宮崎支店の谷次と申します。来期のローターアクト2730地区代表と宮崎ローターアクト代表を務めさせていただく予定です。2年前に宮崎支店に赴任してからローターアクトで活動をさせていただいております。歴史のある宮崎ローターリーの下部組織ですので、しっかりと1年間活動めあげたいと思います。今年には2730地区の年次大会も開催予定で、ロータリアンの皆様のお力添えを賜れば幸いです。何卒宜しくお願ひいたします。

本日は、【私の自己紹介】と、【一年間の宮崎ローターアクトの活動について】、更に、ロータリアンの皆様にとって釈迦に説法なことではあります、【ローターアクトとは何か、目的は何か】についてお話をさせていただきます。現在メンバーを募集中ですので、ぜひ皆様の企業の若手社員をローターアクトの活動に参加させていただきたいと思っております。また、先月ライラというローターリー主催の研修に参加したのでそちらの報告をさせていただきます。

まず【私の自己紹介】から。年齢に関しましては、Jリーグ30周年が話題に上がっておりますが、Jリーグが誕生した年の8月に生まれましたので、今年で30歳になります。

名前が谷次一研で、名前の(かず)というのは当時Jリーグ初代MVPに選ばれたキングカズのカズから来たとのこと。

出身は京都府の京丹後市で、京都といいますが日本海側に面する田舎です。

実家が魚屋を営んでおります。冬には松葉ガニを扱っております。地域の重要な観光資源になっています。

ぜひロータリアンの皆様、冬になったらカニを買う際は宜しくお願ひいたします。

こちらが家族の写真で、姉と弟がおりまして、先日大阪で出席した弟の結婚披露宴の写真です。余談ですが、弟の結婚相手は門川出身の方でして、私も宮崎にいてということで、すごく宮崎には縁があるなと感じております。

続いて高校の時ですが、これはサッカーのインターハイに出場した時の写真です。

中学の時にどうしても全国大会を経験してみたいと思い、裕福な家庭ではないですが親に懇願して福知山成美高校という私立高校に入学し、寮生活をしながら3年間サッカーに打ち込みました。野球で時々甲子園に出る高校なので、関西の方は知っている人も多いのではと思います。自慢のようになりますが、サッカー

に関しては、母校はインターハイの全国大会には出場をしたことがなかったのですが、高3のときに初の出場をすることができました。当時東日本大震災が起こった時でまさかの東北インターハイだったので何とか無事に開催されまして、両親も京都から秋田に応援に駆けつけてくれて、私も応援団長だったので一緒にスタンドから応援をすることができました。

続いて大学時代の写真ですが、関西の近畿大学に進学をしまして、大学ではサッカーをせずに平凡な学生生活を送りました。さすがにこのままだとまずいなと思い、大学4年生の時にオーストラリアに留学に行きました。留学といいますが、両親からお金は自分でためなさいと言われたので、大学には行けずにワーキングホリデーという現地でアルバイトをしながら語学学校に通うというスタイルの留学でした。現地に行くとなると意外と日本人が多く、ほとんどの人が日本食レストランで働いて日本人と過ごすという留学だったので、さすがにこれはと思い、現地のカフェに一軒一軒履歴書を配って回りました。英語は全く話せなかったのですが、何とか皿洗いのポジションをもらうことができ、オーストラリアにいる間はそこでバイトをしていました。帰国するころにはウェイターも任せてもらえるようになりましたので、英語もペラペラとまではいかなかったのですが、少しは話せるようになって帰国できたかなと思います。これは住んでいたころのルームメイトの写真です。日本ではなかなかあり得ないですが、オーストラリアは移民に寛容な国で、いろいろな人が移住していたので、家探しもベッド1つ単位で借りるというようなスタイルが一般的でした。私が住んでいた部屋は男女14人が3LDKで暮らすマンションでした。8畳くらいの部屋に2段ベッドがおいてあり、1ベッドの家賃が6万でした。いろいろな国の人とルームシェアして暮らすことができたので、いろいろなハプニングもあってそれなりに楽しい留学生活をおくれたと思います。

帰国してからはすぐに就活をしました。とりあえず営業がしたいなと思い、いろいろな会社の営業職の説明会に行きました。金融機関は全く見ておらず、というのも幼いころに父から「証券マンにはなるなよ」といわれた記憶がありみていませんでした。おそらく昔、損をさせられたことがあるからかなと思っております。ただ営業がしたいという気持ちが強かったので、営業職の中でも過酷といわれていた証券会社で、まず3年働いてみようかと決めて入社しました。入社してからも、お客様には「有価証券運用はそもそも人のふんどしで相撲をするようなもので、君たちはさらにその人たちが稼いでいるからふんどしをかぶっているようなものだよ」と言われたこともあり、つらいなと思うこともありましたが、今の日本の個人金融資産は1900兆円のうち大半が現預金で眠っていて、これをインフレから守られる資産に変えるために働いているのだという気持ちです。とてもしんどいを持って働いています。

(高瀬支店長に言われているわけではありません)

入社してからの1支店目は埼玉の越谷という地域で4年働きました。開店したての小さな支店でしたので、新規開拓を毎日しておりました。越谷市の住居のインターホンは8割くらい押したのではないかと思います。そして4年目の3月に仕事が終わって支店長室に挨拶に行くと、「谷次君、来週から宮崎支店」と言われて宮崎支店で勤務が始まって今になりました。

九州は初めてだなと思っていたのですが、親に宮崎支店に転勤になったことを報告したところ、小さいころに宮崎旅行に来たことがあると言われてまして、シーガイアのプールに行ったそうなのですが、その時におぼれて死にかけたことがあるといわれました。おぼれた記憶はありましたが、まさかそれがシーガイアだったとは知らなかったので、つくづく宮崎とは縁があるなと感じております。

宮崎に来てからは、初めの1年半は前任の山下支店長にお世話になりました。

すごく情熱的な支店長で、初めての対面はオンラインだったのですが、オンライン越しでも伝わる重圧感がありまして、とんでもない支店に行くことになったなと思いました。半年前からは高瀬支店長にお世話になっておりまして、宮崎支店の若手の女性社員も「高瀬支店長に進路相談をしてみようかな」という社員がおり、若手とも距離が近い支店長でいろいろ相談をさせていただいております。ひそかな話ですが、支店長がお昼に何を食べたかという話が昼下りの社員同士の会話の定番になっていまして、「今日はお好み焼き食べてそのあとラーメンも食べていらっしたよ」とか、大食いエピソードが宮崎支店の社員の好きな話題になっているように感じます。

趣味はキャンプで、宮崎に来てからは会社のメンバーやローターアクトの若手メンバーでよくキャンプをしています。関東だとこのキャンプ場も人だらけですが、宮崎はキャンプ場もいっぱいあってどこも自然豊かで人も少ないので、すごく充実した日々を過ごしています。個人的には宮崎がとても大好きで、本当にいい地域に来られたなと思っています。ある人が、宮崎はハワイよりもいいところだと言いましたが、ご飯も安くて美味しく、ゴルフやキャンプ場も至るところにあるということで、私もハワイよりもいいなと思います。以上が自己紹介になります。

続いて【ローターアクトとは】について【活動報告】をさせていただきます。

私もローターアクトに参加をしたときは何をやる組織なのだろうと疑問に思っていました。

ローターアクトの概要は、社会奉仕・国際奉仕・専門知識開発などと大きく種類を分けて積極的に活動をする組織。

18歳から30歳までの青年男女が集い、全世界にある。全世界で10,698団体あって、203,298人のローターアクトがいて、180の国にあるということでした。現在では年齢の規制は世界的に撤廃されているそうです。

目的としては、

- ・専門技術の開発及び指導能力の開発
- ・他人の権利を尊重する観念を養い、あらゆる有用な職業の道徳的水準及び品位を保持推進
- ・地域社会を初め世界社会のニーズ及び懸念事項を提起する機会の提供
- ・提唱ロータークラブと協力して活動にあたる機会の提供
- ・ローターリーにおける将来の会員として若い人々への意欲喚起が挙げられています。

ここからは宮崎ローターアクトクラブの活動報告ですが、そのような目的に準ずる形で、いろいろな活動をさせていただきましました。現在メンバーは12人ほどで、野村證券、みずほ銀行、第一生命、NTT西日本、東京海上、宮崎ガスで活動をしています。

これは例会の時に企業紹介をしたときの写真です。専門能力開発活動にあたる活動になります。それぞれの会社の説明などを持ち回りでプレゼンしました。社会奉仕活動の活動としては、ボランティアでは宮崎西と合同でゴミ拾いなどをしました。その他にも固い例会ばかりではなく、クラブ奉仕活動で飲み会をしたり、ゴルフを回ったり、ボードゲーム好きな会員がいてボードゲーム例会をしたりなどレクリエーションも多くしています。こちらにある写真は内村さんが例会に参加してくださり、一緒に食事をさせていただきました。ご子息のゴルフの話で盛り上がりまして、お会計の際は「もう終わっています」ということで、この人数にごちそうをいただきました。改めてありがとうございます。その他のロータリアンの皆様も例会へのご参加お待ちしております。昨年に比べると、会員も少し増え、活動も今期は増えたかなと思いますが、宮崎ローターアクトの会員も十分とは言えず、国際奉仕などの活動も広げていったりしていますが現状難しく、来期に関しても会員の転勤なども多く重なり、幹事や会計の理事会メンバーも決まっていないという状況です。

そのような状況ですが、一昨日に2730地区のイベントとしまして、国分でローターアクトのための研修会を開催し宮崎ローターアクトも参加をしました。

その際に池ノ上ガバナリーエリートよりアメリカでのローターリーの研修会に参加された時のお話で、会長エレクトのゴードンマッキナリー氏のコメントでもローターアクトの活動の重要性は世界でも高まっていると言っていたという報告をいただきました。今期は来年の3月に地区大会も開催予定となっております、会員を増やしているいろいろな活動をしていきたいと思っておりますので、ロータリアンの皆様の会社の若手社員の参加をお待ちしております。

私がローターアクトに参加をして感じることは、まだまだ社会人人生が数年であっても別の業界の人の話を聞くと新鮮でとても勉強になるなという事です。以前に在籍していた越谷支店では同じ会社の人としか交流をせず、会社以外は大学時代の友人などだけでしたので、とても狭い世界で生きていたのだと感じました。きっと会員も同じことを感じて、ローターアクトの活動に参加



をしてきているのではないかなと感じますので、代表として有意義な活動や交流ができる組織作りをしていきたいと思っています。

ここからは【RYLAについてフィードバック】をさせていただきます。RYLAは青少年指導者育成研修会というもので『リーダーとは』について2日間学びました。ゲストスピーカーとしてWBC日本代表のヘッドコーチの白井一幸さんがいらしており、『世界一のチームビルディング』という題名でWBC優勝直後の新鮮なエピソードを聞かせていただくことができました。様々なお話の中で印象的だったことをいくつか紹介させていただくと、まずは目標と目的は違うというお話でした。白井さん曰く、企業に例えると目標しかみていない企業は必ず不祥事が起きる。目標というのは達成できない可能性があり、目的は頑張れば達成できるもので、目的こそしっかりと共有しないといけないと仰っていました。

今回のWBC日本代表の目標は優勝を掲げていて、目的は日本中に勇気と感動を与えることと共有しています。過去のWBC日本代表は目標しか掲げていなかったのが優勝することができなかったということでした。

どんなふうに日本中を感動させるかということでは、選手一人一人が自分の役割を果たし、真剣にプレーすることだと仰っており、具体的に表れたエピソードとしては初戦の中国戦でメジャー選手が内野ゴロを打った際も全力疾走で走り、相手のエラーを誘ってセーフになったプレーだそうです。メジャーリーガーでもあきらめずにプレーする姿は観客だけではなく、選手間でも士気が上がるきっかけになっただけでなく、そういったこと一つ一つが重なって、準決勝以降の奇跡が生まれていき、優勝につながり日本中が感動したと仰っていました。

白井さんが大谷翔平選手を日ハム時代に育てていた時も、大谷選手はずっと「世界一の選手になりたい」と言っていたそうですが、ある日「世界一の選手とはどんな選手だ」と質問をしたところ、「成績が1番はもちろんのこと、それだけではなく、世界中の人に愛される選手だ」と答えたそうです。大谷選手は成績で一番をとっても世界中の人に愛される選手になるという目的があるから、成績で一番になってもなれなくても努力をし続けられると仰っていました。

あとチェコ戦のエピソードも印象に残っており、チェコ戦は前評判でも負けるわけがないとされていて、先発した佐々木朗希選手の投げる球にはかすりもしないだろうと思っていたそうです。が、見るうちにチェコの選手のバットが当たるようになっていき、選手や監督もとても驚いて見ていたそうです。チェコ代表は一般企業に勤める社会人から構成されたチームで、そんなチームにプロがこぞった要因として、ウサギと亀の話をとえ話に出していました。ウサギと亀の競争において根本的な違いというのは、亀はゴールだけを見て進んでいたのに対し、ウサギは

亀を見て競争していることだと仰っていました。

まさにWBC日本代表もチェコや中国をみていただけで、世界一を見ていないということにハッとさせられたそうです。

最後印象に残ったエピソードとして、チームにおいて試合に出ない選手がとてつもないパワーを持っていると仰っていました。試合に出ている選手が100パーセントの力を発揮できるかは控えの選手の言葉一つで大きく影響されるそうで、今回のWBC日本代表は控えの選手全員が嫌な顔一つせずに出ている選手を心からサポートしていたとのことでした。

エピソードとしては西武の山川選手を挙げていて、パリーグのホームラン王が控えにいたという非常に屈辱的なことだと思いますが、年下の牧選手の活躍を献身的にサポートしていたみたいです。メキシコ戦での一番の犠牲フライを山川選手が打った瞬間、全員が身を乗り出して喜んだそうで、それは普段から献身的にサポートしていた山川選手だったからこそ全員が自分のことのように喜んでいて仰っていました。

その話を聞いて、私も高校時代応援団長でしたが、試合に出られないのは非常につらくて100パーセント心から応援ができていたかと言われるとそうではなかったので、やはり一流の選手というのは、試合に出ない時も一流だなと思いました。

白井さんとしては、試合に出ている人、そうでない人、会社でも上司部下、マネージャー、新入社員それぞれが果たす役割があり、リーダーシップが要されるということも仰っていました。以上が白井さんの講話の話になります。素晴らしい人格者の方で、組織に与える影響は大きい方だなと思います。ジャニーズ事務所も無事に建て直されると思います。

そのほかには、グループワークとして理想のリーダー像とはについて議論をいたしました。どのようなグループワークだったかといいますと、鬼滅の刃という漫画が研修材料に使われていたのですが、その中に出てくる3人のキャラクターがおり、それぞれのリーダーとしての特徴を出し合い共通点を探しながら、そこから自分たちの中でリーダーとはどのような素質を持った人なのかを結論付けました。

我々の班では、材料の鬼滅の刃に出てくるキャラクターにはそれぞれリーダーとしての能力があり、一概に共通点をまとめることはできないということになりました。それに加え、WBCの白井さんの講話にあったように、組織の人それぞれがリーダーシップを発揮することが大事であるということから、真のリーダーとは、組織のみんなそれぞれがリーダーシップを果たすことができるようにマネジメントができる人物と結論付けました。見ず知らずの人たちとの2日間のグループワークでしたが、それもまたロータリー活動の良さだなと感じ、充実した2日間の経験になりました。

今後より一層ロータリー活動に献身的に参加をしていきたいと思っていますので、皆様何卒宜しくお願いいたします。

東京OB会

フレンドシップ委員会より



安部 庸夫氏



荻野 泰孝氏



宮原 孝行氏



高橋 優氏



高橋 研造氏



山口 弘明氏



小林 徹也氏



松井 毅氏



松尾 隆氏



植平 光彦氏



大石 秀一氏



大谷 光夫氏



大庭 雅裕氏



天野 雅裕氏



田中 直樹氏



柏木 典之氏



平澤 宏基氏



高林 克彦氏



本年度(2022~2023)宮崎ロータリークラブの目標

- ① 70周年記念事業の開催と成功
- ② 池ノ上ガバナーエレクトの活動支援
- ③ 会員数100名以上の堅持
- ④ 例会出席率90%以上
- ⑤ ロータリー財団寄付一人当たり100ドル以上
- ⑥ 米山奨学会寄付一人当たり10,000円以上

<会長> 川崎 建作
<副会長> 小倉 和彦
<幹事> 河東 太浩
<会報委員会> 赤石 裕一郎

■例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)
■例会場/宮崎観光ホテル(☎27-1212)



日本の
ひなた
宮崎県



■事務局 宮崎市宮田町13番8号(田崎ビル) TEL:24-4872 FAX:22-0288
URL:http://miyazaki-rc2730.jp E-mail:m-rotary@miyazaki-rc2730.jp